

授業 コード	12413	科目名	サステナブルツーリズム論	担当者		小槻 文洋				
		副題	持続可能な観光を実現するために	開講期	後期集中	単位数	2	DP対応	1,K1,K2	
【授業概要】										
サステナブルツーリズム(持続可能な観光)の基本概念と歴史的経過、地域・行政・観光事業者・観光客などのステークホルダー(利害関係者)がそれぞれ果たすべき役割と課題、持続可能な観光を実現するための各種手法を、David Weaver (2006) Sustainable Tourism: Theory and Practice, Butterworth-Heinemann.の各章を参考にしながら学びます。海外の事例に照らしつつ日本の観光を考える枠組みを身につけます。										
【到達目標】										
関連する概念を理解し、説明できる。 持続可能な観光を実現するために、観光産業に関わるさまざまな利害関係者が実施可能な工夫・手法について理解し説明できる。										
【授業方法・計画】										
パワーポイントと配付印刷物(ハンドアウト)、関連する動画などを用いながら講義形式で進め、リアクションペーパーを通して質問やコメントを受け付けます。										
第1回	授業の概要と導入 / 「持続可能な観光」の出現(第1章)									
第2回	「持続可能な観光」の諸問題(第2章)									
第3回	オルタナティブツーリズム 関連概念と限界(第3章)									
第4回	日本における「持続可能な観光」の受容と取り組み(第1-3章)									
第5回	従来型マストツーリズム(第4章)									
第6回	関連産業の役割:旅行会社、ガイドブック、交通、宿泊施設(第5章)									
第7回	アトラクションの役割:カジノ、テーマパーク、スキーリゾート、ゴルフコース(第6章)									
第8回	品質管理:行動倫理とエコラベル(第7章)									
第9回	日本における民間マストツーリズム企業の持続可能な観光への取り組み(第5-7章)									
第10回	観光受入地域の課題:コミュニティとの関係(第8章)									
第11回	観光地における空間管理:観光収容力、ゾーニング、開発(第9章)									
第12回	観光客管理の手法:人数制限、分散化、教育、デマーケティング(第10章)									
第13回	エコツーリズム:定義、産業、費用対効果(第11章)									
第14回	日本における地域・行政の取り組み(第8-11章)									
【準備学習・復習】										
【事前学習】教科書の仮訳をoffice365のSharepointで配信するので、該当する章を事前に読み、意味の分からない箇所をチェックし、各章冒頭にある到達目標課題の回答を準備しておくこと(120分)。 【復習】授業で配付した資料やPPTスライドを復習し、関連する事例を調べること(80分)。										
【課題に対するフィードバックの方法】										
授業内容の理解度を、授業中の教員からの質問を通して確認し、必要に応じて補足的な解説を加えます。また、毎回授業終了時に記入してもらうコメント・質問に対して、履修者へのメールで回答や補足説明を行います。必要に応じて、授業中にも口頭でのフィードバックを行います。										
【受講上のアドバイスおよび注意事項】										
授業では、サステナブルツーリズムの分野で定評のあるWeaverの著書を使います。Weaverの示した基本的な考え方は今も十分に有用ですが、本で紹介される事例は2006年当時のものなので、履修者の皆さんは、現在の取り組みを積極的に調べていただきたいと思います。 質問はリアクションペーパーのほか、授業終了後に教室で受け付けるほか、メールを通じても受け付けます。										
成績評価方法	期末テスト60%、授業内の課題(小レポートなど)40%									
教科書	David Weaver (2006) Sustainable Tourism: Theory and Practice, Butterworth-Heinemann.の仮訳をoffice365のSharepointで配付する。授業資料はプリントとして配付し、Sharpointでも共有する。									
参考書	藤稿 亜矢子(2018)『サステナブルツーリズムー地球の持続可能性の視点から』晃洋書房。									
TC2104	授業に関連する実務経験			なし						